

令和元年度第4回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会（書面会議） 委員の皆様からの御意見

（御意見は、委員名簿の順に掲載しております）

新型コロナウイルスへの対応について

（金子委員）

1. 新型コロナの現状を考えると、サポートセンターの臨時休館（3/31）は妥当だと思います。
2. サポセンの「対面会話」が多いこと、来場者の安全を考えると、感染拡大が収まらない場合は、臨時休館の延長もやむを得ないと思います。まずは慎重に行いましょう。

（内田委員）

①サポセンフェスティバルの中止について

中止の判断自体は妥当と考えます。

ただし、予定していた実行委員会の席上での発表で本当に良かったのか、それ以前の通知はできなかったのか、意思決定プロセスは参加団体にとって透明と感じられていたのかについては疑問が残ります。

まず、原則として、フェスティバルは実行委員会が開催しておりますが、自ずからその裁量には限界があります。今回の件については、実行委員会に諮ることなく当局が中止を判断しても良いケースだったと思います。むしろ、参加団体が準備を進めていたことを考えると、中止の判断が早ければ早いほどよかったと思いますが、あのタイミングが最速であったかどうか。

また、中止を決定する前にも、中止するかどうか内部では検討されていたかと存じますが、参加団体からの直前の問い合わせに対しても、中止しないという回答と聞いております。検討中なら検討中で、中止の可能性もあることをちゃんと事前に説明しておくべきだったと思います。メールアドレスを持っている団体に対しては、一斉メールの1本ですむところですので、もう少し丁寧で意思決定プロセスが見えるやり方もあったのではないかと、改善点ではないでしょうか。

②市民活動サポートセンターの臨時休館について

一定の理解はできますが、欲を言えば、印刷室のみの使用、立ち入りを制限しつつの利用（利用を予約制にして、部外者は立ち入れないようにするなど）など、柔軟な運用は可能なのではないかと思います。

また、相談事業についても、電話相談に切り替えるなどのやり方もあったと思います。

また、運営協議会について書面会議になったのも大変残念でした。このような協議会では、委員どうしの対話によって新しい気づきが生まれることも多々あったと思います。市民参加の理念を持ったサポセンだけに、そういう面も重視して対面での通常の会議の開催をしていただきたかったです。この規模の会議で、コロナ感染リスクは本当にそこまで高かったのか、疑問に感じました。

(河野委員)

タイムリーに情報発信して行って欲しい。当面の処置としては妥当と判断されます。

(三島委員)

サポートセンターフェスティバルの中止は、とても残念ですが、この緊急事態で仕方がないことと思います。

事態が終息したら、毎年3月の開催ではありますが、時期を早めて開催をしてもよいかと考えます。

(藤本委員)

市内の公共施設がどこも閉館して利用できず、私が所属する団体の役員会は飲食店で打ち合わせをしました。印刷室が利用できないので、近くのコンビニでコピーをして、経費が高くなりました。今回のことでサポートセンターの存在価値を感じました。無理なお願いかもしれませんが、広いスペースなので、テーブルの間をあけたり、パーテーションを活用するなどして利用させてもらえないのかなと話題になりました。

(小島委員)

フェスティバルの中止など、対応ご苦労様です。サポートセンターの運営に置かれても、会場クローズとならぬよう下記のような配慮が重要と思います。

- ・机の配置の工夫。(小さな机での対面利用を避け、ブロック間の間隔をあけるなど。)
- ・次亜塩素酸利用など消毒機能付き空気清浄機導入の検討。
- ・会合時間を1時間程度に制限。
- ・一日何回かの机、イス、トイレ定期消毒。

引き続き対応、よろしくお願いいたします。

(山田委員)

4月からは開館してほしい。サポートセンターは人が密集しているとは言えない。開館時間を多少短縮してでも開館したほうが良い。

(榎本委員)

新型コロナウイルスはその広がりについて過去に類を見ない状況で予断を許さない。2月21日の市長の指示に基づき、翌日には実行委員会を開き協議の上、中止の決定がなされ、スピーディーな対応であり、サポセンの臨時休館も3月11日の第7回の対策会議により再度の休館延長となり、市民利用者の健康配慮に迅速な対応をしていただいたと認識しています。

(胤森委員)

新型コロナウイルスは、世界的な感染が拡大している中、日本においても、危機意識を持って行動する必要があると考えております。よって、①市民活動サポートセンターフェスティバルの中止について、そして、②市民活動サポートセンターの臨時休館について、感染防止対策として、止むを得ない事だと理解しております。

また、市民活動サポートセンターは、臨時休館においても、電話による対応を従来通り行って頂いている事も、非常に良いと思います。

新型コロナウイルスの感染防止対策として、外出を控え、石鹸で手及び手首を洗い、マス

クを着用する事が必要ですが、朝晩体温を計ったり、体温を記録したりする事も必要だと考えております。

それとは別で、ご自宅から、外出しなければならぬ時は、外出中に眼鏡（例えば、度のない眼鏡）をかけたり、手袋をつけたりする事も大切だと思います。そして、外出している時に、出来れば、手袋をつけたままで外さず、ご自宅に帰ったあと、眼鏡と手袋を取って、携帯をアルコール消毒で拭き取り、石鹸で手と手首を洗い、うがいをするように心がける事も大切且つ有効的だと思います。なお、洗える手袋をお勧めします。

新型コロナウイルスの感染拡大の防止策として、特に海外から帰国した方々（日本人を含む）は、2週間の自粛（自宅待機）ではなく、国が決まった場所で2週間徹底的な隔離措置を取る事が重要だと考えております。自粛するとか、要請するとか、ではなく、罰則を設けるなど拘束力（強力）のある強制的な命令を下す必要性があると思います。

これからは、花見の時期になりますので、一般の国民に対しても、自粛するとか、要請するとか、ではなく、強力な措置を取るべきと思います。

新型コロナウイルス危機対策本部員会議が開催される際においても、感染防止対策として、換気の徹底、マスクの着用、アルコール消毒の使用、1席ないし2席ずつ間隔を空けるように、細心のご注意を払いながら、会議を進んで頂ければと思います。皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

（有浦委員）

フェスティバル実行委員の方々には頭が下がります。

（加倉井委員）

先が見えないので、この対応でするしかなかったと思います。

（島田委員）

対応は早いと思う。駅周辺の場所ですので、気を引き締めて継続をお願いします。

（齋藤委員）

フェスティバルの中止および臨時休館に対する対応としては、いずれも来訪者のほとんどが不特定多数で適切なコントロールが不可能と考えられるため、適切だと思います。

（永沢委員）

センターとしては仕方ない中止、休館と思います。

事務局より

フェスティバルの中止及びサポートセンターの臨時休館につきまして、皆様の御理解に改めてお礼を申し上げます。

フェスティバルの中止につきましては、第3回実行委員会の前日にイベントについてのさいたま市の方針が出されたことから、実行委員会の場で直接事務局としての考えをお示しさせていただきました。今後は、このような緊急事態に限らず、参加団体との密なコミュニケーションのために、一斉メール配信の活用等、連絡体制を見直していきます。

臨時休館につきましては、サポートセンターだけでなく、さいたま市の市民利用施設全体として対応しているため、御不便をおかけしておりますが、御理解いただきますようお願いいたします。再開に備え、できる限りの感染拡大防止対策を行ってまいります。

Webサイト「さポット」について

(内田委員)

問題意識やサイト作成に向けての注意点については、ある程度包括的な観点が出たと思います。実際に作成するのは大変だと思いますが、ぜひよろしくをお願いします。

いくつか、以前に私が主張した内容が載っていないので、書いておきます。このサイトは、さいたま市の市民活動団体にとって必要な情報が掲載されているのが望ましいわけですが、その情報はさいたま市内のものとはかぎりません。むしろ、東京や国レベルの情報、また、世界の情報も結構重要だと思います。そちらへの意識もあっても良いかなと思います。

また、これも結構大変なことだと思いますが、イベント等を行える場所の情報がまとまっているとありがたいです。(例えば市民広場など。) 民間の場所(コミュニティカフェなど)もあればうれしいですが、公共の場所だけでも十分に価値ある情報になると思います。

(河野委員)

最初から合格点を目指す必要はなく、スピード感を持って内容のエンハンスを実施して運営することが大事だと考えます。

(三島委員)

さいたま市市民活動推進委員会でも、もっとWebの活用をという意見がでました。

協働した活動団体の紹介や評価のコーナーがあったり、市民活動団体、行政、企業の3者にとって協働に役に立ったり、さらに広報につなげられたりという意見がありました。

(小島委員)

サポセン・各地のイベント情報などタイムリーな情報発信体制づくりが必要です。素早い情報発信とともに、運営会議などで公正な情報発信できているかチェックする必要があります。

(榎本委員)

Webサイトの充実は重要で、登録団体に直近の内容をできるだけ掲載してもらえるようにするとともに、スマホ閲覧を意識した作りも必要との点を強調して団体の活動の広がりを進めたい。

市民間にも、長寿へ進む中で、何かを模索しつつもそのきっかけを探している人々が多く見られ、Webサイトがその契機になれば良いと考える。

(胤森委員)

イベント情報の登載は、対象団体の申請(要望)によって、Webサイト「さポット」に登載されるのでしょうか。イベント(活動)の実施日より1か月前から当該情報をWebサイト「さポット」に載せて頂けるのでしょうか。また、イベント情報を登載するためには、どのような審査が行われますでしょうか。

「さポット」の「さ」は平仮名で、「ポット」は片仮名となっていますが、何故でしょうか。「さポット」は検索し難いのではないかと懸念しております。

(有浦委員)

同意します。

(加倉井委員)

Webを作る意味は、利用者が増えることが第一に挙げられますが、これは皮膚や筋肉です。もう一つすぐには見えない骨である視点を持ち運営した方が良いと考えます。理念と6つの機能とサポートセンターの歴史は、入れるべきだと考えます。子ども達がサポートセンターを調べたいと思った時に対応できる内容にすべきだと思います。職員の方も異動して来た場合、サポートセンターを理解する内容は入れておくべきだと思います。平成18年10月発行の整備基本計画を配布されやっとなサポートセンターの骨組みがわかりました。アクティブラーニングを進めるためにも必要なことだと考えます。利用者を増やすこととサポートセンターの活動を理解してくれる人を増やす2つの視点を持ってほしいと思います。

(齋藤委員)

万人に受けるホームページ作りは結果として使い勝手の悪いものとなりかねません。その点で、これから市民活動をしようとする市民と、すでに団体を作り活動している、またはしようとしている団体とに分けている点は、従来のホームページとは異なる特徴と言えますが、市民についてはもう少し分類し細分化した方が良いかと思います。また、利用者は、「ホームページで提供される情報」であっても、口コミやレビューなどの第三者からの間接的な情報によってその信憑性や信頼感が増すことが知られています。いわゆるウィンザー効果と呼ばれるものです。このような効果が発揮できるような工夫もあると良いかもしれません。

(永沢委員)

ターゲットを市民団体とするか、広く市民とするかによって中身も変わってくると思います。今は両立を目指していますが、その場合はWebの入口を分けるなどして対象に必要な情報がダイレクトに入る工夫は必要と思います。もっと市民団体にスポットを発信してもらう協力も必要です。

事務局より

一年に渡り、Webサイト「さポット」について様々な御意見をいただき、ありがとうございました。皆様からいただいた御意見を踏まえながら、新しい「さポット」がさいたま市の市民活動をより効果的に支援するツールとなるよう、具体的な検討を進めてまいります。

(胤森委員の御質問への回答)

イベント情報は、Web登録団体が作成し申請した記事をサポートセンターが確認し、承認作業を行い掲載されます。情報の掲載は、イベント実施日の何日前でも構いません。承認作業に当たっては、「さいたま市市民活動サポートセンターWeb会員規約」に基づき、公序良俗に反していないか、専ら営利を目的としていないか、特定の政党又は選挙に関する特定の候補者の利害に関する情報ではないか、特定の宗教又は教派、宗派、教団の利害に関する情報ではないか等を確認しています。

令和2年度事業計画案について

(金子委員)

令和2年度事業計画案は、実施事項が具体的に示されており、本案で実施されると良いと思います。

(内田委員)

アンケートからも、小規模交流イベントの実施は良かったのではないのでしょうか。

とくに小規模イベントについては、市民活動団体との協働をすすめることで、サポセンスタッフの負担を減らしつつ、良いイベントを増やしていくことが重要ではないかと思います。かなりの部分を任せても大丈夫であるような団体とどれだけ繋がれるかがキーではないかと思います。

(河野委員)

セミナー開催に向けて、各区のコミュニティ課と密に日頃から情報交換をし、各区コミュニティ課は地区のニーズを積極的に早い時期から吸い上げる活動に取り組んで、年間計画に順次埋め込んでいくという進め方をお願いしたいと思います。

(三島委員)

サポートセンターとして、市民活動の入り口となるように、情報を得たり、ネットワークの拡大につながるような交流の場の設定があるとよいと思います。また、市民活動団体、行政、企業が協働できる中間支援となるような場の設定もあるとよいかと思います。

(藤本委員)

各区ネットワーク会議への参加はどのような方法をとるのでしょうか。

(小島委員)

・交流カフェ

今後も定期開催してもよいと思います。継続により、徐々に若い世代も入ってきてくれると思います。

・サポセンフェスティバル

「市民活動とは何か？」をテーマに、展示と市民との対話を団体協働事業として継続いただきたい。

・セカンドライフセミナー

「これからどう生きていく？」というテーマであれば若い人たちにも門戸が開かれるでしょう。活動体験発表は3団体となっていますが、各分野ごとのパネル発表も加えると良い。各団体の活動アピールの場として今後も継続開催していただきたい。

・令和2年度事業計画案

団体協働のイベントづくりを行ってほしい。

(山田委員)

ラストに記されている「10区コミュニティ課との打合せの定期的な開催、各区市民活動ネットワーク会議への参加等を通しての各区のニーズ把握」という提案を支持します。サポセ

ンについては浦和以外の人々の関心が薄くて、利用する団体も少ないと思うからです。

(榎本委員)

資料3の、1月18日実施の市民活動交流カフェ事業は新規事業とのことであるが、市民活動の活性化や質の向上を目的とする事業とのこと、すばらしい企画であったと思います。また、ファシリテーターとして高校生にも参加してもらったとの事、将来の市民活動の担い手育成として、様々な場面での問題解決の進行役を育てる上で重要な事と思います。今後中・高生の参加を促してほしい企画だったと考えます。

フェスティバルの中止は準備活動を進めていた参加団体は残念でしたが、来期への参加をぜひお願いしたいと思います。

「セカンドライフを楽しむために」のアンケート結果は大変参考になり、Q4のまちづくりに興味があるとの回答が多く、Q5の団体情報を希望している人が多いのも、サポセンの存在意義を再認識させてくれます。

(胤森委員)

交流の促進や学習の機会を提供するために、市民活動サポートセンターフェスティバル、小規模交流イベント、セミナーなどの開催は、とても良いと思います。継続的に行って頂きたいものです。

また、団体同士の交流の促進について、市民活動交流カフェのような小規模交流イベントが定期的開催されると良いのですが、それとは別で、週に1回ないし月に2回、決まった曜日の決まった時間帯に、9階のどこかで市民団体の交流コーナーが設けられると良いかも知れません。

(有浦委員)

資料3…市報が大きな役割をはたしている事にちょっとびっくり。

資料4…今活動をしている人達も、先の見えなくなっている団体もあつたり、行きづまったり、悩みながらやっている人達が多いと思われるので、共通の課題を持つ団体が交流する事で、やっている意義、役割等を再確認できればいいと思いました。

(加倉井委員)

小規模セミナー印刷室作業体験の定例化はとても良いと思います。

(朝霧委員)

市民活動の新しい担い手や次世代の市民活動の育成はどこの地区にとっても最も苦勞している問題ですね。我が地区でもどこの会でも悩んでいます。

団体同士の交流促進や協働について、岩槻区、緑区、見沼区と交流が持てるきっかけができ、代表者が他地区の会議に参加させていただいた段階に至り希望が持てました。

(島田委員)

各区の活動状況を月単位で掲示紹介したらどうか。

(齋藤委員)

高校生を一つのターゲットとした市民活動交流カフェは、担い手育成の土壌作りとして今後も継続した方が良いでしょう。高校自体においても、地域社会の問題解決を一つの体験学

習と位置付けて進めているところも増えてきているので、高校に出向くことも事業として検討して良いと思います。また、10区コミュニティ課との連携は積極的に進めていくことが重要だと思います。

(永沢委員)

本来は（予算のこともありますが）セミナー相談は常に行っているようにできるとよいと思います。立地がよいので、自主でなくとも協働などで予算がないなりにイベントも増やせるとよいと思います。

事務局より

交流の促進（サポートセンターフェスティバル、小規模交流イベントの開催）及び学習の機会の提供（セミナーの開催）をソフト事業の柱として取り組んで参ります。様々な機会を通じて市民活動団体のニーズを把握し、具体的な支援につながるような事業を行っていきたいと思います。

（藤本委員の御質問への回答）

各区コミュニティ課に依頼して市民活動ネットワーク会議の際にお時間をいただき、

- ①サポートセンターの紹介やセミナー、イベント等事業の御案内を行うこと
- ②ネットワーク登録団体の皆様から、さいたま市の市民活動の推進に向けての御意見、御要望をうかがうこと

この2点を主として、各区との連携を図っていきたいと思います。

利用者からの意見

(三島委員)

多様な相談に、丁寧に答えて頂きありがとうございます。

(藤本委員)

P 9のコインロッカーの利用についての意見が気になります。どうしてそのロッカーがスマホだけ入れていると分かったのでしょうか。空のままキープしていると外見で分からないはずです。確認はどのようにして行ったのですか。勝手に開けることはできないと思います。

(小島委員)

ロッカー利用について、1週間程度の小規模貸し出しロッカーも用意できると良い。(1週間以上は有料化。)

(山田委員)

いろいろな意見が寄せられているが、初歩的・一般的な質問も多く、これらにはパンフレットを見れば分かるようにすれば応答の手間が省けるのでは。

(榎本委員)

単純に施設の利用についての意見も多くありましたが、自分が興味関心を持っていることへの案内や情報提供を求める相談事業について、サポセンでいねいに対応している事がよく分かります。出来る事、出来ない事を明確に説明して対応している事に行政サービスの質の高さを感じます。

(胤森委員)

前述した通り、臨時休館中においても、電話による対応が従来通り行われている事は非常に良いです。

臨時休館の延長などの緊急措置は、今後とも続く可能性がありますので、問い合わせによるご回答だけではなく、もし可能であれば、登録団体の代表にEメールにて一斉送信で行って頂ければ、新しい進捗状況が一層迅速的に伝える事ができると思いますが、如何でしょうか？なお、一斉送信をなさる際、個人情報保護の観点からも配慮しなければなりませんので、b c cの形でのご送信をお勧めします。

さいたま市市民活動サポートセンターと登録団体との連携として、緊急時の連絡網があるといいですね。

(加倉井委員)

窓口の大変さが伝わります。

(朝霧委員)

自分勝手な利用者の意見や行動について、忍耐強い対処にご苦労を感じました。

(島田委員)

新登録団体には利用例規の理解をしてもらおう。

(齋藤委員)

利用者からの意見等のデータが蓄積されたことと思うので、Q&Aを作り利用者にも閲覧

できるようにしたらどうでしょうか。

(永沢委員)

個人的にはここまで細かく意見を集約する必要はないと思っています。むしろ相談や支援に労力を使い、意見はあくまで意見箱などにあるものに限るのがセンターの機能強化にもつながると思います。

事務局より

3月2日から臨時休館となっておりますが、電話による問い合わせには通常通り対応を行い、また、窓口業務については4月1日から行うこととなりました。臨時休館に伴いイレギュラーなことが多いですが、一層、丁寧な対応と説明を心掛けてまいります。

(藤本委員の御意見への回答)

コインロッカーについては、扉が半透明で中に何が入っているか見ることができます。

また、コインロッカーは当日限りの利用としており、閉館時間を過ぎて荷物が残っていた場合はサポートセンターにて回収する旨を掲示しております。

さいたま市市民活動サポートセンター利用状況

(金子委員)

利用者からの意見を良く分析されて、利用しやすいサポセンとして、利用者（来館者）の拡大を図っていただければ良いと思います。

(内田委員)

総合案内対応が、平成 29 年度までに比べて平成 30 年度以降は大きく減少していることが気になります。窓口相談の回答の質が下がっていないか？施設の案内だけではなく市民活動についての様々な相談にのることができる場所だという認識が周知されていないのではないか？今一度検討、反省いただければと思います。

(小島委員)

「スポット」などで貸出し機器の利用状況、印刷室の利用状況などの「見える化」が必要と思う。

(山田委員)

全体的に利用状況はここ数年頭打ちになっているが、ラウンジ利用予約だけは年々漸増しているのは評価したい。

(榎本委員)

来館者は若干増加しつつもほぼ横ばい、活動団体の登録届は減少傾向、貸出機材で展示パネルは増加、印刷作業室利用は激増、チラシ・ポスター設置は増加、Web登録団体は減少、Webアクセスは平成 28 年度から激減しています。このデータから見えてくる事を検証すると良いと思います。

(胤森委員)

団体登録の申請を受理なさる際、さいたま市市民活動サポートセンターから、団体ロッカー・メールボックスの存在やご利用及び申込方法について、ご説明して頂く必要があると思います。

しかし、経費削減や手間を省く事を考えると、団体ロッカー・メールボックスを最初から必要としない団体に、毎年申込みのご案内を送らなくても良いのではないかと個人的に思いますが、如何でしょうか？また、事情が変わり必要になったら、当該団体さんから改めて申し出るようにする方法など。現在、登録団体の数は少なくないからです。

(朝霧委員)

学生の利用者がどこの施設でも増えていますね。「若者を育てる」ためと思いながめていますが、皆と一緒になくても、公共の場を利用しなくても、我家でしっかり勉強できるようにならなければ本当の成長に結びつかないのではないかと思います。

(島田委員)

サポセンの存在が市民に分かってきたような気がします。

(齋藤委員)

年間利用者数については、3月の休館の期間や事業の中止の影響で利用者減が予想されま

すが、2月までの利用状況で見ても例年と同じ傾向となっている点は評価されるべきでしょう。また、前月に比べてWebアクセス件数が増えていることも良い傾向です。この二つについては、増加の要因を調べて今後の活動に反映していくことが重要でしょう。

(永沢委員)

3月以降は減少度合が心配ですが、ウイルス対策を優先してあまり人が集まりすぎない工夫もありと思います。

事務局より

ラウンジや印刷作業室の利用だけでなく、相談機能やセミナー等のソフト面からロッカー・メールボックス、貸出機材等のハード面まで、複合的に市民活動を支援する施設であることを、より多くの方に知っていただき、利活用していただけるよう、PRに努めてまいります。

貸出機材の内容の見直しやWi-Fiの導入など、時代の変化に合わせた対応も引き続き検討してまいります。

第2期運営協議会を振り返って

（金子委員）

運営協議会委員としてお役にたてなくて申し訳なく思っています。サポセンの益々の発展と事務局の皆様の御苦勞に感謝し、ご健勝を祈念申し上げます。私自身も勉強になりました。ありがとうございます。

（内田委員）

どうも皆様ご苦勞様でした。個人的にも勉強になることが多くありました。ありがとうございました。

指定管理者から直営になったタイミングで、市民活動サポートの力量がずいぶん下がったという印象を持っておりましたが、この数年間でだいぶ力量が復活してきたというのが私の印象です。

これからも、市民活動のサポートという本来の役割を忘れず、また、市民を巻き込み、市民とともに（協働して）様々なことを行っていくというサポセンの在り方をより大切にしていただければと思います。

（河野委員）

私の居る西区では、地域的なこともあり浦和まで来てセンター利用するという活動を進める団体は少ないのはやむを得ないと考えている。その為にも、各区コミュニティ課とジョイントしたセミナー開催等の機会を増やししながら、サポセン活動に対する意識を高めてもらうことが、今後は更に重点的に進めていくことが大事であると考えます。様々な視点で皆さんの考え方を拝聴できる良い機会を得て有意義でした。ありがとうございました。

（三島委員）

今期の議題にあがっているWebの運営の在り方について、時代の流れに合わせて、より良く多くの方の活用につながるものに、早くなって欲しいと思います。そして、このサポートセンターが市民の方にとって、なくてはならないと思われる施設になるには、どうしたらよいかを自分自身も利用しながら今後も考えていければと思います。

（藤本委員）

利用者懇談会に出席し、サポートセンター利用団体の意見をうかがい、サポートセンターの存在意義がすこし分かってきました。これまで「印刷室を利用し、フリースペースで仲間と打合せをする便利な場所」くらいに考えていました。

（小島委員）

他区の市民活動ネットワークと意見交換でき良かった。今後、縦割りの壁を越えてさいたま市全体の市民活動をサポートできるよう権限・機能・環境拡充ができるとう良い。

各団体は共通の課題として「活動の継続」があり、新しい人に団体の活動目的・活動内容をアピールしていきたい。

セカンドライフセミナーなど共通の活動テーマごとに団体協働で何をアピールしていくか決め継続できると良い。

サポセンを普段利用できない立場からいろいろ意見を言わせていただきました。

(山田委員)

中央区の市民活動団体でも、サポートセンターを通常利用している団体はそれほど多くありません。さいたま市全体の市民活動団体にもっと有効に活用してもらうために、どう周知していくか、そのための話し合いを充実させられれば良かったと思っています。

(榎本委員)

出席がほとんど出来なく、申し訳なく思っています。ただし、送付していただく資料から様々な事が分かり、自分達の活動の参考と勉強になりました。

欠席者にも資料についての意見を送付してもらう制度があっても良いかと思いました。今さらこのような事を語って申し訳ありません。

多くのことを学ばせていただきました。

(胤森委員)

皆さま、大変お世話になりました。他の地域における他の団体の方々とお会いできて光栄に存じます。

運営協議会の委員になりたくない団体さんもいらっしゃるかと思いますが、皆さまから貴重なご意見をお聞きする事が出来て大変勉強になりました。また、発言が出来る場を設けて頂いて、どうもありがとうございます。

是非とも、色々な団体さんが委員になって頂きたいと思えます。

運営協議会において、皆さまのご意見及びご要望（例えば、Wi-Fiの導入など）は、一刻も早く実現ができますように、期待しております。

(有浦委員)

協議会に私が役立ったとは思えなかったのですが、私にはいい勉強の場になりました。ありがとうございました。

(加倉井委員)

今期はWebや利用者の意見などの話し合いが多かったですが、もっとアイデアなどを話す機会があれば面白いと思えました。座る席が決まっていて、ときどき席が変わった方が良いと思えます。いつも空調の吹き出し口に当たってしまいちょっと辛かったです。

(朝霧委員)

サポートセンターにはフェスティバルにだけきり参加（利用）していないので意見が言えず申し訳ありません。

(島田委員)

市民活動の良いところと楽しみのPRが大切、重要に思えた。

(齋藤委員)

第1期(平成28～29年度)の討議内容は、サポートセンターの管理基準の見直しでしたが、委員の皆様の真摯な討議の結果、見直し案が完成し、平成29年度から試行的な制度運用が始まりました。そして、平成30年度からは正式な運用となりました。新たな管理基準によってだいぶ利用しやすい環境作りが実現できたと思えます。第2期(平成30年～令和元年度)の

主な討議内容は、サポートセンターが市民活動をどう支援していくかということでした。具体的な事業案の検討はもとより、利用しやすいホームページ作りの要望やホームページの見直しの時期が迫っていることを受けてWebサイト「サポート」の見直しを検討することでした。幸いにも、ターゲットの特定とコンテンツの構成とそれらの関連づけといった基本的な見直しの方向性を固めるところまでこぎつけて協議会を終えることとなり、ホッとしています。日頃のNPO活動などの経験に裏付けされた委員および専門的知見を持つ委員の方々の真摯な参加と忌憚りの無いご意見、さらには独創性のあるアイデアがあればこそです。この場を借りて、委員の皆様にご挨拶申し上げます。また、事務局の皆様にも感謝申し上げます。

(永沢委員)

協議会＝利用者懇談会となっている印象です。もっと市民活動支援のあり方、機能強化や条例、規約などのあり方、いずれは指定管理者の制度設計といった内容の協議会になってほしいです。(そのためにはメンバーの入れ替えも。)

(青柳委員)

日頃よりお世話になっております。このたびは2年間にわたりまして、運営協議会委員として大変お世話になり、本当にありがとうございました。

(神田委員)

市民活動サポートセンターの運営に対し、各種団体、市民活動団体、学識者の皆様からさまざまな意見や提言を伺うことができました。